

目的 高齢者の快適な住環境を設備設計の面から考える際、やはり、その基礎となるのは高齢者の身体計測値を把握することである。本研究では、過去4年間にわたる高齢者の身体計測によって得られたデータをもとに、加齢による身体計測値の変化、身長と諸計測値の関係および指極と諸計測値の関係について、青年群、中年群との比較により高齢者の身体的特徴を検討する。

方法 被計測者は、60歳以上の老年男性512人（平均年齢 69.7歳）、4・50代の中年男性60人（同 52.0歳）、老年女性664人（同 67.6歳）、中年女性61人（同 47.7歳）、青年女性163人（同 21.0歳）であり、計測項目は身長、体重、上肢拳上高、指極、肩峰高、肘高である。

結果 男女共、加齢に伴い各身体計測値は小さくなっている。その減少傾向は男性より女性の方が著しく、且つ、女性は、加齢に伴いばらつきが大きくなる。体重は男女ともに年代に関係なく個人差が大きい。身長の短縮は4・50代で既に始まっており、減少の割合は著しい。また、上肢拳上高や指極等に関係する腕長の短縮は、関節の硬化等の影響で60代後半より始まり、70代後半で著しくなる。身長および指極と他の諸計測値との相関は、青年群ほどではないが、老年群も高い値を示している。身長を基準にして回帰直線を求める場合、老年群は身長の短縮が著しく、各諸計測値との割合が変化する為、青年群と同一の回帰直線で老年群の身体寸法を推測するのは無理である。従って、高齢者の各部位の関係を求める場合、変化の少ない指極を基準とした方が加齢による身体的特徴を明確に把握しやすい。